

岩手県水産試験場年報

昭和51年度

(1976)

岩手県水産試験場

2.1.11 海流封筒による沿岸海流調査

岩間 宝作・長洞 幸夫・菊池 孝宥

目 的

春季から夏季の沿岸域の海流動向を明らかにし、とくに小スルメイカの来遊機構を究明する基礎資料とする。

方 法

ビニール製海流封筒を指導船北上丸で3・4・5・6月の地先定線海洋観測時に各月10地点から各100枚宛投入した。

表1 海流封筒投入状況

投入場所 投入月日	黒 埼			鮎 ヶ 埼			尾 埼	椿 島			計 枚
	5海里 枚	10海里 枚	30海里 枚	5海里 枚	10海里 枚	30海里 枚	5海里 枚	5海里 枚	10海里 枚	30海里 枚	
3月17,18,19日	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	1,000
4月19, 20日	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	1,000
5月7,8,9日	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	1,000
6月1,2,3日	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	1,000
計	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	4,000

結果の概要

海流封筒の漂着場所は北海道（道東，道南）沿岸から茨城県沿岸にわたっている。

拾得の報告があったのは投入地点より北上した61枚と南下した146枚の計207枚で拾得率は5.1%となるが、うち6月に投入したものの拾得が最も多く全拾得数の69.0%を占めている。また、3月に投入したものは全く発見がなく拾得の報告がない。

漂着場所は図1, 2にみるとおりで、投入地点より北上したものの50.8%に当たる31枚が苫小牧を中心とした道南に漂着しているほか三陸北部と道東方面に2分され、黒埼、鮎ヶ埼の全点および尾埼、椿島5海里地点から流着している。南下したものはとくに、三陸南部の宮城県本吉方面に集中し60.9%に当たる89枚が漂着しているが、隣接する椿島5海里地点から投入、流着したものが84.2%を占めている。

表2 漂着状態

漂着場所 投入地点	北					上					南					上					合計
	道		東		道	南		計	岩	手	宮	城	宮城・福島		福島・茨城		計				
	岩手・青森	道	広尾～落石	機裳～登別		室蘭～茅部	宮古～広田						気山沼～本吉	杜鹿～相馬	小名浜～鹿島						
4月	黒	5海里	1					1	3								3	4			
	黒	10海里	2					2										2			
	埼	30海里	1		1			2										2			
	鮫	5海里	2					2				2					3	5			
	ヶ	10海里	1					1			1					1	2	3			
	埼	30海里																			
	尾	5海里											1				1	1			
	槽	5海里									24						24	24			
	10海里																				
	島	30海里																			
	黒	5海里			1			1									1	2			
	黒	10海里																			
	埼	30海里	2		1			4										4			
	黒	5海里																			
	黒	10海里																			
	鮫	5海里										1					1	1			
	ヶ	10海里	6					8										8			
	尾	5海里						1										1			
	尾	5海里						2										2			
	槽	5海里						4										4			
	10海里																				
	島	30海里																			
	黒	5海里			4			11	3								9	20			
	黒	10海里	1					8	1								3	11			
	埼	30海里						8										8			
	黒	5海里						1										1			
	黒	10海里						4										4			
	6																				
	7																				
	黒	5海里																			
	黒	10海里																			
	埼	30海里																			
	黒	5海里			1			6										6			
	黒	10海里						6										6			
	ヶ	30海里						1										1			
	尾	5海里																			
	尾	5海里																			
	槽	5海里																			
	槽	5海里																			
	島	10海里																			
	島	30海里																			
合計			14	16	21	10	61	9	89	22	26	146	207								

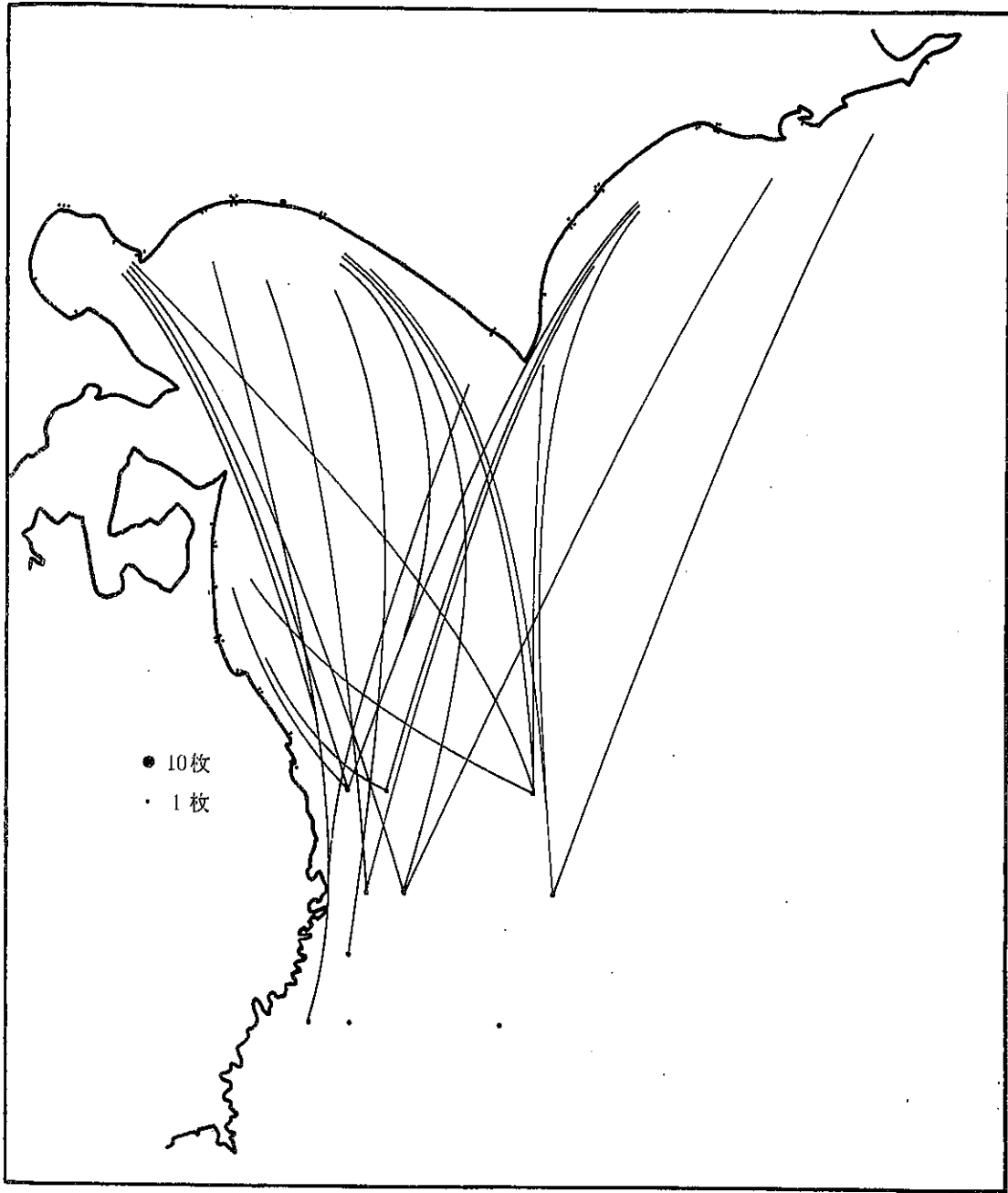


図1 投入点および流着状態（北上）

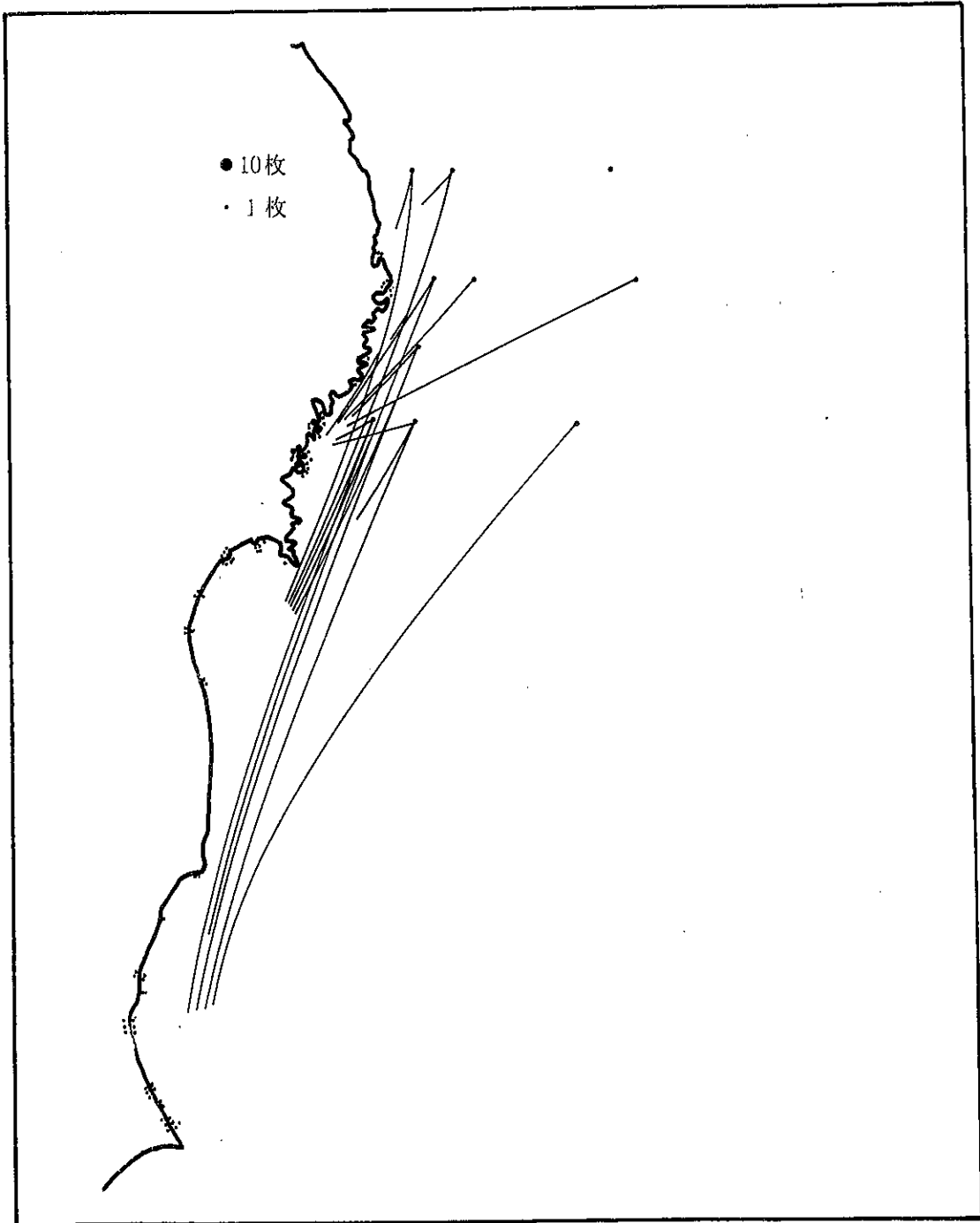


図2 投入点および流着状態（南下）

投入から拾得までの日数は図3に示すとおりで、北上したものは17～238海里（直線距離）で15日から213日、南下したものは13～146海里で2日から184日を要している。また、北上、南下とも同じ距離、方向でも所要日数は一定でなく時間的に大きな差がみられ海流、気象条件のほか漂着場所なども合わせ考える必要がある。

この時期、調査海域の海流は、黒埼、鯨ヶ崎沖10、30海里地点で北々東～北西方向、鯨ヶ崎、尾崎5海里地点および椿島の全点では、南々西～南西に向う動きがとくに卓越してみられたが、黒埼5海里地点を中心に各5、10海里地点では南北に交錯する複雑な動きを示している。

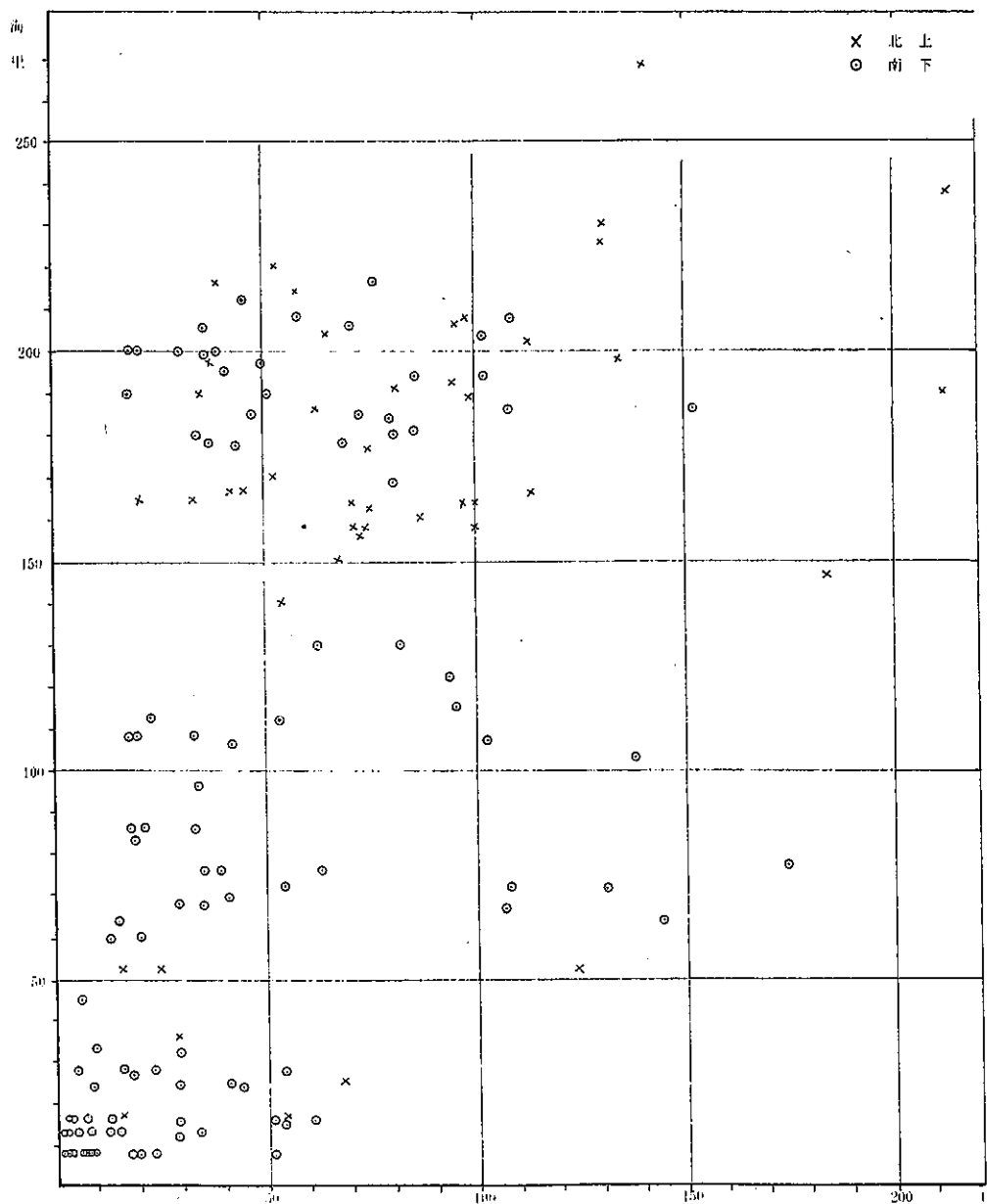


図3 到達距離（直線）と経過日数